

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 香川県立善通寺養護学校 所属: 高等部 記録日: 平成 28年 2月 8日

キーワード: 脊髄性筋萎縮症 社会生活 院内学級で職場体験実習

【対象児の情報】

・学年

高等部2年

・障害名

脊髄性筋萎縮症II型

・障害と困難の内容

筋力の低下により入院治療をしている。基本ベッドの上での生活をしているため院内学級で学習している。体調のよいときは一時間程登校することができるが、基本は病院内での生活が基本になっている。

タッチパネルを使用するための筋力が不足していて、長時間は使用しにくい。

将棋が一番の趣味で、香川県の高文祭新人戦 将棋部門で6位になった。パソコンのスキルは、知識・技能共に高いものを持っていて、ワードやエクセルをある程度使用することができる。

ベッドの上が使用できるスペースとなるため、物理的な制約がある。



(院内学級での授業風景)

【活動目的】

・当初のねらい

院内学級で職場体験実習を行い、就労につなげる

・実施期間

前期 平成27年6月8日～10日 10:30～12:00 13:30～15:00

後期 平成27年11月11日～13日 10:30～12:00 13:30～15:00

・実施者

近藤創 堀内 松井 富田

・実施者と対象児の関係

担当教員、メディア部長

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

院内学級は治療が最優先であるという考えから、職場体験実習を今まで行ってこなかった。そして、実際に行うための環境も整っていなかった。

・活動の具体的内容

Windows タブレットとモバイル Wi-Fi ルーターを使用することで仕事をする環境を整え、在宅ワークをしている企業と協力して、パソコンによる文書作成の職場体験実習を行う。

・対象児の事後の変化

本人は卒業後の生活に関して、学校から離れて属する場所を失うことによる孤独感に対する漫然とした不安

感を持っていた。今回、実践を実施するに当たり、職場体験実習を行って仕事のスキルを学び、自分も就職することにより社会とつながれるということを望んでいた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象児にとって、職場体験実習を行う上での知識技能はあらかじめ十分備えていた。しかし、院内学級という環境のため治療が中心というイメージが強く、職場体験実習を行うことが今までなかった。

仕事とそれを行うための環境があれば、本人の実力を発揮して仕事をする事が出来ると考えた。

在宅ワークをしている企業と協力することで文書作成や表計算をする仕事を見つけ、Windows タブレットとモバイル Wi-Fi ルーターを使うことで職場環境を整えることができた。



(職場体験実習をしている様子)

・活動の様子

企業とは携帯電話を使って、やりとりを行った。通話やメールをする際のマナーを少しずつ習得しながらこなしていくことができた。最初はとても緊張していたが、慣れるにしたがって聞きたいことをきちんと聞けるようになっていった。

8インチと10インチを試したところ、10インチでは場所を取りすぎることから8インチを使用することになった。

添付ファイルの操作や WORD、EXCEL の使用はもともとノートパソコンを使用して習得してきたスキルがそのまま使用できることで、苦も無く取り組むことができた。



(ソフトキーボードを使用しての文字入力)

・作成した文章



(WORD を使用しての文書製作)



(EXCEL を使用しての表製作)

どの課題に関しても与えられた課題をこなすことができ、高い評価を受けることが出来た。

・エピソード

○前期職場体験実習が終わったとき、マウスのクリックによる指の疲れを訴えた。そこで、さまざまな形態の入力装置を試した。現状では、マウスを動かすことは問題なく、クリックが問題であるという結論に達したので、弱い力でクリックできるマウスを用意した。

今後に向けて様々なデバイスを試し続けることが必要だと考えられる。

○修学奨励費で Windows タブレットを購入し、来年度の職場体験実習につなぎ、卒業後の就労につなげられるようにしたい。



(入力デバイス選び)

・入力デバイス選びについて

トラックボールA	カーソル操作は問題ないが、クリックのボタンが斜めについていて指が滑り落ちてしまい押しにくいためストレスになる。高さがあるため、少し腕を上げる必要があり、疲れるのが早くなってしまう。
ジョイスティック型	時間がかかる上、力もさらに必要になる。
トラックボールB	カーソル操作は問題ないが、クリックのためのボタンが沈み込むようについているために押せない。
指マウス	カーソル操作はできるが、機械が小さすぎてクリックをすることができない。
タッチパッド	指を曲げるのが難しく、操作しにくかった。
マウスA	クリックに力があるために長時間の使用により手に負担がかかる。
マウスB	Aよりも小型でクリックも小さい力で出来るために現状では一番適していた。

・今回使用した Windows タブレットについて

○マウスを使用することができる	筋力の関係でタッチパネルを使用できないケースで有効だった。
○ノートパソコンと比べて小さい	限られたスペースでは、キーボードがなく小さいタブレットが便利である。
○PC スキルをそのまま活用できる	今までの知識がそのまま使うことができる。
○今後に向けて色々な機器がそろっている	入力装置に関して、様々な手段がすでに存在している。また実際に使用しているたくさんの先行事例があるために準備をすることが比較的容易に行える。

・今後について

- ① いろいろな入力方法の検討
- ② 就学奨励費によって自分用の Windows タブレットを購入
- ③ パソコンのスキルアップを目指す
- ④ コミュニケーションのスキルアップ(学校外の慣れていない人とのコミュニケーションの経験)

・相手企業とのエピソード

生徒の感想 企業の方が適切な説明をしてくださるのでわかりやすく、気遣いがありがたかったです。自分がやっても不可能なことを要求されず、少し頑張ればできる課題を提供して下さったのでとても充実感や達成感を持つことができました。(本人談)

<実習後、教員と担当者との話し合い>

普段パソコンでメールのやりとりはしていないのですか？→普段は携帯のメールかラインしか使用していません。→仕事上のコミュニケーションをパソコンのメールで行っているため、メールの返信が遅れると相手を確認してくれたかわからないで困ります。→携帯でパソコンのメールを受信できるように対応する。

企業から見て、卒業までにしてあげばいいことはありますか？→一番はコミュニケーション能力です。学校の先生や友達とも大切ですが、それ以上に学校外の人ともコミュニケーションを取れることが大切です。

技術に関しては問題ないが、OSについての知識や、ワードやエクセルの更なる使い方に関する知識を身に付けてほしい。

・まとめ

去年度までなら対象児は院内学級という環境が要因となり、力をフルに発揮して職場体験実習を受けることが出来なかった。しかし、今回機器を上手に利用することで困難を取り除き、本来の力を発揮するチャンスを得ることが出来た。卒業後の豊かな生活につながるような素晴らしい実習をすることができ、将来に明かりをとすことが出来たのである。今後、体調の変化に対応できるよう入力する手段を色々と準備することや、社会人としての人間力をもっともっと育むことが必要となるが、未来につながる具体的な計画を築けることはとても大切なことだとおもう。

今回の事例を行い、改めて子どもたちを育むことと同じように、今まで育んできた力を発揮することも大切にしていきたいと思う。